

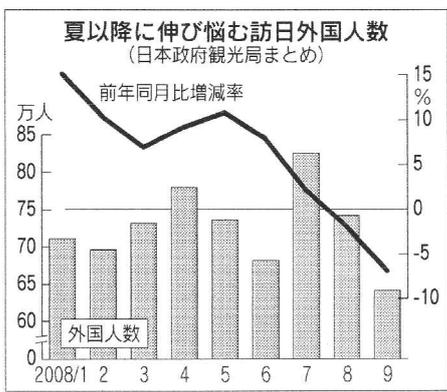
急激な円高に直面し、北関東の観光地でも外国人観光客の誘致（インバウンド）に逆風が吹き始めた。国内観光客の低迷を補おうと経済発展を続ける中国などアジアを中心に誘致活動を強化してきた矢先だけに、戸惑いも小さくない。一方、国内の旅行会社には海外ツアーの引き合いが急増。米国の金融危機に端を発した為替の変動に、観光業界が一喜一憂している。

「日程早めたい」

「円高が進んでいるので日程を早めたい」。十月末、群馬県のインバウンド担当者は中国・香港の富裕層向けツアーを企画する現地業者からの突然の電話に驚いた。温泉の露天風呂付き個室一泊三万円程度のプランで、百人を超える規模の案件。

ホテルがにぎわう年末を避けて来年一月の日程で調整していたが、業者が年明けにさらに円高が進むと予想して、変更を打診してきたという。「群馬ではまだまだと思っていた円高の影響がこんなに早いとは」と認識の甘さを実感した。

観光地 受け入れ拡充の矢先



円高外国人誘客に逆風

視察ツアーを受け入れる予「ホテルもバスも予約した定だ。ところが十月下旬に、開催の可否が見えず取



泊客数は前年比一六％増の超と好調だっただけに先行約一万四千二百人と好調に集客を伸ばしていたが「為替の影響が今後とこまで長引くか」（観光創造課）と三県の自治体や観光地はこ

草津温泉でも外国人観光客数は夏ごろから減少に転じた

「影響早い」懸念広がる

八カ月連続で前年実績を上回っていた訪日外国人数は、世界経済の変調を映すように八月からマイナスに転じている。この一週間余りの円高は、これにさらに追い打ちをかけた。

先手の対策必要

茨城県は十月下旬、横浜市内で開かれた国内最大のインバウンド商談会に出席した際、「韓国の旅行会社からウォン安を懸念する声が上がった」（観光物産課）という。水戸市の借業園は〇八年度九月末までの外国人来場者が前年同期の三倍



増の四万四千六百人にまで拡大。「温泉の魅力も少しずつ分かってもらえてきた」という。歴史テーマパークの日光江戶村（栃木県日光市）でも数年前から忍者を東南アジアに派遣するなどの活動を展開。年間三十万人の来場者数のうち、二一％だ

「ウォン安で韓国向けのツアーが女性に人気だ」。JTB関東トラベルサロン前橋の武藤隆之支店長は声を弾ませる。原油高による航空料金の燃料サーチャージ（価格変動調整金）で低調だった海外ツアーに円高が追い風となり、十一月、十二月の予約は前年比一割増で推移している。

海外ツアーは好調 韓国など、今月予約1割増

水戸市内のHISでも「ツアー予約の際に事前に両替をしておくという顧客が増えている」という。ブランド品の服飾や宝飾を販売する藤井織維（高崎市）は通販サイト「サントノール」で十月下旬から、バッグやアクセサリーの価格を5%以上値下げする「円高還元祭」を始めた。「ずっと円安で厳しい時期が続いた。この機会にチラシなどでクリスマス商戦に臨んでいきたい」（藤井行雄専務）と意気込んでいた。